

# Edition



特集

YOU CAN DO IT!

東村山ラグビー少年団

in 菅平高原

6

TAKE FREE

# 東村山ラグビー少年団



Higashimurayama Rugby Football Club

since 1987

9月20日から始まるラグビーワールドカップ日本大会。開催を前にラグビー人気はますます盛り上がりを見せています。そんな中、注目を集めているのが子供のラグビーです。近年授業でラグビーを取り入れている小学校も増えているといいます。そこで向かったのは東京・東村山市。ここで35年に渡り子供たちにラグビーの面白さを教え続けている吉澤和男監督に、自身が立ち上げた少年ラグビーチームについてお話をうかがいました。



# Edition

## INTERVIEW

series 03

東村山ラグビー少年団  
監督

## 吉澤和男

昭和25年 東京・東村山市生まれ  
昭和62年 東村山ラグビー少年団開校

大学時代にラグビーと出会う。社会人になり、怪我のリハビリをきっかけに少年ラグビークラブを開校。厳しさとユーモアを併せ持つ指導は子供たちから絶大な信頼を得ている。自身にとって「ラグビーは宝」と話す。



Q、なぜ少年ラグビーチームを立ち上げたのですか？

吉澤監督:私は学生時代にラグビーで頸椎を傷め、その後年数は経ったものの、また指が痺れて動かなくなりました。整形外科へ行ったら「これは放っておくと完全に指が動かなくなるから、何か指を動かすことをやった方がいいですよ」と言われました。それで、ちょうど女房がママさんバレーをやっていたので、そこでボール拾いをさせてもらうことにしました。そこにラグビーをずっとやっている知り合いがいて、子供のラグビーチームでも作ろうかという話になったのがきっかけです。当初は私を含めお父さんが4人、そしてその子供たち9人くらいの小さなチームから始まりました。言い出しっぺが私だったので、じゃあ監督をやれよということで私が監督に(笑)。ラグビーは自分の指のリハビリのためというのがありますが、うちは息子が3人いるんですが、実はずっと息子たちにラグビーをさせたかったんです。子供っていじめられると「あの子がいじめた」ってすぐ親や先生に訴えますけど、私は「自分で解決しなさい」という考え方です。やられたらやり返すのではなく、そんなのは放っておきなさい。ラグビーは精神面を鍛えられますから、その辺りが子供にとっても良いスポーツなんじゃないかと思っています。

Q、クラブの方針を教えてください。

吉澤監督:子供たちの体力をつけること、そして精神力を鍛えることです。あと私がいつも口をすっぱくしているのが、礼儀挨拶だけはきちんとしなさいということ。昔も今も、子供って友達に「ごめんなさい」が言えないんです。大人が怒って無理やり言わせるのではなく、自発的にできる子を育成したいという思いがあります。その方針は昔から変わっていません。礼儀挨拶についてはコーチと揉めることもあります。例えば、子供は「おはようございますを言った」と言うんですが、言われた方は聞こえていないのに「ちやんと挨拶した」はないでしょう。ただ言えばいいというものではないんですよね。「ごめんなさい」「おはようございます」「ありがとうございました」は相手に聞こえて初めて挨拶なんです。そこはうるさいくらい言って聞かせています。毎年夏に長野県の菅平高原へ合宿に行くんですが、そこには各地から何千人とラグビーをやっている方が集まってきます。朝の散歩をしているいろんなチームと会うので、必ず挨拶をしなさいと言ってます。もう監督命令です(笑)。高校生たちが走っていて、こっちが挨拶をすればちゃんと「おはよう」って返してくれます。そんなコミュニケーションも子供たちにとっては良い経験だと思います。菅平のホテルにはたかさんのチームが宿泊するわけですが、初めてうちのクラブが泊まったホテルの方に「こんなにピシッと礼儀正しいチームは初めてです」ってびっくりされたこともあります。

Q、子供たちの年齢層は？

吉澤監督:人数は36名で幼児から小学校6年生まで所属しています。

す。女の子も3名います。何歳からというのは決めていないので幼児からいますが、できれば小学1年生くらいから入っていたくのが良いと思います。最初はグランド遊びから始めて、低学年になるとルールを教えて練習をします。まずボールは前に投げちゃダメだよってところからですね。今年から1、2年生を対象にしたタグラグビーというものを取り入れています。タグラグビーは、子供のタックルは怪我に繋がりが危険だということで安全性重視のために始まったスポーツです。腰の左右に紐をつけて、その紐を取るとタックルが成立したということになり、そこで一回動きを止めるんです。最近は授業で取り入れているところも増えてきているようです。それをきっかけにラグビーに興味を持ってもらえたらいいんですけどね(笑)。

Q、子供にラグビーを教える際何を重要視していますか？

吉澤監督:まず、怪我をさせないということです。コーチたちには、タックルする時は特に気をつけなさいと言ってきます。あと、痛みを我慢をさせることも教えないといけません。擦りむいたりちよとぶつけて痛いからとすぐグランドから出るのではなく、できるだけ我慢しなさいと。でも子供が楽しみたいと始まらないので、「痛いのどこだ?」って聞いてわざとポンって叩いてみたり(笑)、擦り傷ができた子がいたら「来い来い」って呼んで「べっ」ってツバを付ける真似をすると「わーきたね～」なんて笑って騒ぐわけです。そういうことを楽しませて、痛みを忘れさせてグランドへ送り出します。練習してなんぼの世界です。試合でちよと怪我して痛からグランドから出て、結局それで終わってしまうのはもったいないでしょう。もちろんこれは続けられない方という怪我もあるので見極めが大事なんですが、私としては擦り傷くらいで引込めちゃダメだと思っています。

一方で、「怖い」と思ったら子供は絶対辞めてしまいますから、その恐怖心を最小限にして何とか継続させるのが私たちの仕事です。特に5、6年生は痛みを教えないとその次はないですから、痛みを乗り越えて自分がトライに持っていけば絶対に嬉しいはずですよ。その喜びを知って欲しいんです。年齢が上がるとつれて体も強くなってくるし、相手に対しても、やられたら自分も痛いけど相手も痛い、お互いに痛んだってのがわかってきます。なかなかこういうことを体験する機会はないでしょうから、ラグビーを通してそれを知って大事なんじゃないかなと思います。

Q、どうい性格の子がラグビーに向いていますか？

吉澤監督:はっきり言って向き不向きはありません。運動がやりたい子であれば誰でもいいよっていうのが私のスタンスです。ラグビーのボールは楕円形なのでどこに飛んで行くかわからないでしょう。しよっぱなから顔に当たって泣く子もいます。痛くて泣くかもしれないけど、私たちは怪我だけはさせないように気をつけていますので、そこは任せていただきたいです。今までもいろんなお子さんがいました。すごく生意気な子、太っていて動けない子。でもそ

れなりに、みんなと一緒にやれるようになります。性格が優しい子は人にぶつかることができません。それは徐々に教えるしかないですね。でもそういう子はそのうちすこくなってきますから。あと、子供にとっては当たり(タックル)だけでも楽しいと思います。いい発散場所になるでしょう。ラグビーをして気持ちを発散すればいいですよ。

Q、体格や運動能力に自信がなくても大丈夫ですか？

吉澤監督:私はどうい子でも受け入れます。タックルが弱いとか、足が遅いとかいろんな子がいます。でもラグビーはいろいろなポジションがあるので、小さくて動きがいいからこ、体が大きいからこ、って体格や力に合わせたポジションを与えることができるんです。だからどうにでもなります。以前、練習中に逃げ出した子もいました(笑)。ランパスっていう練習でボールを回して走りますが、遅い子だったので。その子だけついていけなくて、それを何回もやるもんだから途中で逃げちゃったんです。コーチたちみんなで慌てて探しました。その子はもう絶対にラグビーはやらないだろうって思っていたけど、高校でも大学でもラグビー部に入ってた。そういう子もいるんですよ。

Q、ラグビーを通して子供の成長を感じますか？

吉澤監督:感じます。成長がよくわかるのは合宿後ですね。たかが3日間なんですが、帰ってくる多くの子供たちに変化が見られます。合宿の目的の一つは、食事の好き嫌いをなくそうというのがあります。特に野菜嫌いの子が多いんですが、合宿で好き嫌いを克服できるようにする子は結構います。父兄から「合宿から帰ってきたら嫌いな野菜をちよとだけど食べようになった」って話を聞くと嬉しくなりますね。合宿中は低学年から高学年まで組み入れた班を作って、責任者を決めて生活させます。食事も班ごとにご飯をよそい食べ終わったら片付けます。それを3日間やる。子供たちもしっかりしてきますよ。母親がいつも側にいると親離れができないんですよ。合宿前に「お母さんが来ないから行きたくない」って泣いていた子が、帰ってきたら「楽しかった!」って喜んでるなんていうのはよくありますから。普段の練習でも、母親が試合のハーフタイムで子供にすぐ寄って来て「大丈夫だった?」って声をかけるんですが、そうすると子供もベタッと甘えちゃうんです。でも一度母親を離してみたらコロッと変わって、しっかりトライに持っていくし大活躍ですよ。母親がくっついてると自立できないですよ。それを見ていると、成長のためにもある程度親離れ、子離れは大事なんじゃないかなと思いますよ。

ラグビーは体力や忍耐力を養うことができるスポーツです。いろんなスポーツがありますが、小学生の時期だけでもせうラグビーをやってもらえたらいいなって思っんです。ラグビーをやっていたら中学上がった時、野球でもサッカーでも陸上でも何にでも対応できますから。もし興味があるのであればいつでも見学や体験ができますので、ぜひ気軽に見に来てください。





## Living the dream

「夢」の実現に向かって頑張っている方を応援します。

あなたの叶えたい夢や地域の夢などを編集部にお聞かせ下さい。  
選考の上、Editionに掲載させていただきます。ぜひ、あなたの「夢」  
を叶えるお手伝いさせていただきます!

### 【応募条件】

あなたが叶えたい「夢」であること。

### 【夢の例】

- ・プロのダンサーを目指している。
- ・ソムリエを目指している。
- ・ママさんバレーボールで優勝したい。
- ・お祭り地域を元気にしたい。

### 【応募方法】

株式会社宅配広告社のホームページより、お問い合わせフォームに必要事項を  
明記の上、「お問合せ内容」欄にあなたの夢、活動などをご記入下さい。  
採用された方、または団体はこちらからご連絡させていただきます。



# 宅配広告社

TAKUHAI AD CO.



## Special thanks!!

鈴木ハルカ Editor & Writer

H.SUGI Photographer

新潟市ジュニアラグビースクール

東村山ラグビー少年団

広告主募集  
フリーペーパーEditionに  
広告を掲載しませんか?  
03-5328-1700



Instagram  
edition\_freepaper

素敵な写真が沢山見られます!





# 東村山ラグビー少年団



Higashimurayama Rugby football Club  
since 1987

## 見学、体験、大歓迎です!

詳しくは、ホームページをチェックして下さい。  
<https://ameblo.jp/rugbyhrc>

